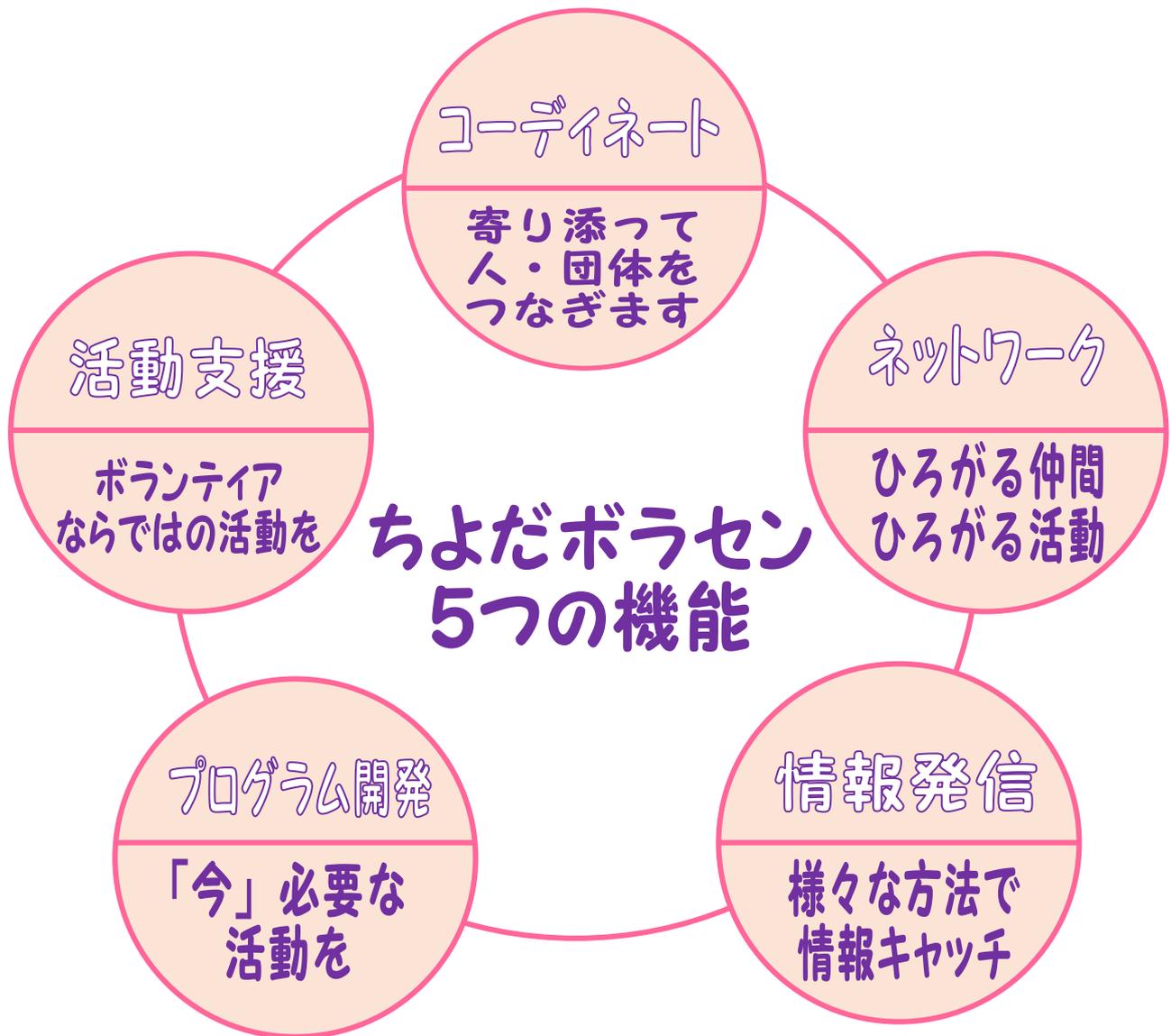


ちよだボランティアセンター・レポート



～みんなが参加し、支え合うまちづくり～

社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会
ちよだボランティアセンター

〒102-0074 千代田区九段南 1-6-10 かがやきプラザ 4 階

電話 03-6265-6522 FAX 03-3265-1902

E-mail volunteer@chiyoda-cosw.jp URL <http://www.chiyoda-vc.com/>



ちよだボランティアセンターは「千代田区に住み、働き、学ぶ人がお互いに気にかけて、笑顔が生まれるまち」を目指しています。

～数字でみる！ちよボラ～

| | |
|---|--|
| <p>① 活動希望者数</p> <p>862 人</p> <p>新規 455 人</p> | <p>② 登録グループ数</p> <p>162 団体</p> <p>新規 4 団体</p> |
| <p>③ 活動延べ人数</p> <p>17,588 人</p> <p>昨年度 36,152 人</p> | <p>④ 相談受付数</p> <p>863 件</p> <p>昨年度 1,182 件</p> |

■活動対象別ボランティア活動件数及び活動延人数

| 種 別 | 内 容 | 活動件数 | 活動延人数 |
|--------------------|---|--------|---------|
| 施 設 | 高齢者施設、障がい者施設、児童施設、美術館、博物館など | 397件 | 1,465人 |
| ボランティアグループ NPO等 | 国際協力、障がい者支援、高齢者支援 環境保護、子ども・家庭支援、手話など | 3,158件 | 15,620人 |
| 個 人 | 使用済み切手整理、地域行事ボランティア など | 88件 | 9人 |
| 社会福祉協議会 | サロン、地域行事など | 135件 | 488人 |
| 合 計 | | 3,778件 | 17,582人 |

※ちよだボランティアセンターで把握できた件数と人数

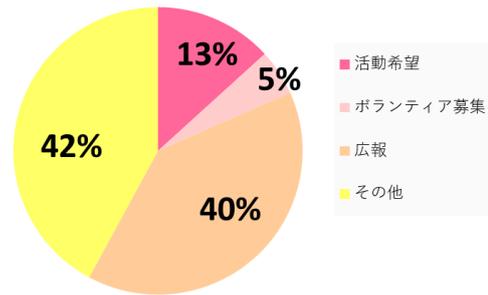
受託事業

| 活 動 内 容 | | 活動件数 | 活動延人数 |
|---------|-----------------|------|-------|
| CD版 | 広報千代田、千代田区議会だより | 1件 | 6人 |

※コロナウィルス感染症の影響により、ボランティア活動が中止・縮小されているため、ボランティアの受入れ施設、団体、またボランティア活動者数も減少しています。

■ボランティア相談内訳

| | | 昨年度 |
|----------|-----|-----|
| 活動希望 | 103 | 110 |
| ボランティア募集 | 40 | 66 |
| 広報 | 308 | 527 |
| その他 | 328 | 479 |



【その他の活動内訳】

| | |
|----------------|--------|
| ・センター事業に関する問合せ | … 118件 |
| ・企画協力 | … 53件 |
| ・寄付 | … 40件 |
| ・企業の社会貢献活動 | … 36件 |
| ・物的資源の利用 | … 29件 |
| ・その他 | … 28件 |
| ・Vグループ設立・運営 | … 19件 |
| ・施設・団体情報 | … 16件 |
| ・他社協からの問い合わせ | … 11件 |

| | |
|------------|------|
| ・講座 | … 5件 |
| ・刊行物 | … 5件 |
| ・保険 | … 4件 |
| ・NPO法人設立運営 | … 4件 |
| ・取材 | … 4件 |
| ・トラブル・事故 | … 4件 |
| ・災害 | … 3件 |
| ・Vグループ見学 | … 1件 |
| ・手話通訳 | … 1件 |
| ・学校V活動 | … 1件 |

※コロナの影響で活動を休止、縮小している施設、団体等も多く、広報の相談が減少しています。一方、活動希望相談は昨年度と大きな差はなく、コロナ禍だからこそ何かできないかと考えている人も多いと考えます。

地域課題解決プロジェクト 企業×区内施設など

コロナ禍で「つながっていたい」を解決!

株式会社セールスフォース・ドットコム

× 児童発達支援・放課後等デイサービス「ぴかいち」

コロナ禍において地域との交流の機会が減った障がい児と、在宅勤務のため「自宅でする」ボランティア活動を探していた企業社員との文通による交流プロジェクトです。

月1回のお手紙交換やオンライン交流会を行い、お互いの交流を深めていきました。

参加した方からは「楽しい時間が持てた」などの感想をいただきました。今後も形を変えての活動継続を予定しています。



コロナウィルス感染防止対策を支援!

株式会社プロロジス× 高齢者施設・介護事業

コロナ禍でも社会貢献活動を行いたいという企業の想いと、コロナウィルス感染症対策に必要な物品が不足している医療従事者の皆さんの困りごとを解決するために、フェイスシールド製作の活動が始まりました。

社員が会議室に交代で集まり制作したフェイスシールドは、区内の介護施設・訪問看護事業所に寄付されました。



【1】相談・コーディネート

■個別相談 ～個人の困りごとの相談を受けてボランティアをコーディネート～

相談内容

①ケアマネジャーからの相談で、高齢で歩行困難の方が、代わりに近くの図書館で本の貸借をしてくれる人を探しています。

個人ボランティア登録者の中から、本が好きな方に相談しました。同じ趣味ということもあり、本の貸し借りだけではなく話し相手にもなり、本を通じてお互いとても良い関係を築きました。

その後

②あんしんセンター職員からの相談で、サロン等人が大勢いる場所に行くのが苦手で、なおかつ認知症が進行している方のために、自宅で傾聴の相手をしてくれるボランティアを探しています。

活動当初は個人ボランティア2名一組で月1回自宅に訪問していました。その後、コロナ禍で直接の訪問が難しくなったものの、オンラインで活動継続中です。相談者も話し相手がいることで笑顔を取り戻しました。



オンライン傾聴の様子

ボランティアで地域を支える 活動説明会

ボランティアに関心がある方へ

これからボランティア活動を始めたい方向けた「ボランティア活動説明会」を実施しました。

<テーマ>

- ①「僕がフリーコーヒーを始めた理由」
- ②「つながりを切らない活動のカタチ」
- ③「千代田区でコロナ禍の新たなつながりを始めませんか。LINEボランティア」

「自分のできることをできる範囲で」活動していくことや、ボランティア活動を通して地域とのつながりを切らないことがフレイル予防につながることを学びました。自分の特技が地域のためになることを知った受講生のひとりが、
障がい者施設でネイルボランティアとして活動を開始しました。



延べ参加者 64名/3回

かがやきボランティア 学習会

ボランティア活動に役立つ知識や スキルを学ぶ学習会

今、必要とされている活動は何かを学ぶための学習会を開催しました。

<テーマ>

- ①「発達障がいを理解し、どのように関わることができるか」
- ②「コロナ禍の高齢者の現状を知り、できることを考える」
- ③「今、必要とされていること『傾聴』」

コロナ禍における必要な活動を知るために、地域の在宅高齢者の現状を知り、オンライン傾聴や文通など非対面でできる活動を各地の事例を参考に学びました。すでに活動しているボランティアは、学んだことをもとに、地域で困っている方の支援活動に役立っています。

延べ参加者 92名/3回

※自分のできることでボランティアができることや今必要とされている活動等を知ること、ボランティア活動を始める一歩となり、実際にボランティア登録をし活動へとつながっています。

■ボランティア支援ハンドブックの発行

ボランティア活動を行う方々やボランティアを受け入れる施設・団体向けにハンドブックを発行しました。

ボランティアハンドブック

主にボランティア未経験者や初心者に向けて、活動時のポイントや困った時の対応を一冊にまとめ、気軽に参加できるように促します。来所者、講座等の参加者へ配布しています。
(500部発行)



ボランティア(インフォーマル)支援をとり入れる方法

福祉・医療等支援者を対象に発行。実際の事例を用いることにより、コーディネートからトラブル対応までボランティアを受け入れる際のイメージをつかみやすくしました。区内の福祉施設、介護事業所等へ配布しました。(600部発行)



【2】活動支援

ボランティア・グループ
NPO・学校・企業

■コロナ禍における地域活動への支援

コロナ禍における地域課題解決のために非営利で取り組む個人・団体などの活動支援を行いました。

コロナ禍で困っている地域の皆さんをサポート！

コロナの影響による区民のみなさんの困りごとに対してサポート活動を行っている団体に対し、相談・助言および助成金の交付を行いました。

また、「千代田区社会福祉協議会 新型コロナウイルス対策支援助け合い事業（愛称：こま助プロジェクト）」として活動内容をFacebookで紹介しました。

■おもな活動事例

コロナ禍で尽力する人々の力になりたいと学生ボランティアグループから相談がありました。



他地区団体の事例を参考にビニール製防護服の製作を行い、区内の医療機関や高齢者施設に300着以上を寄贈しました。



【その他の事例】

- ◎ひとり親家庭へ、食材や日用品を詰めた宅食ボックスの郵送
- ◎高齢者や子育て世代等に向けた体操動画の配信
- ◎ちよだの街や商店を巡る少人数ツアーの開催 など



計13団体

こま助プロジェクト

■ ボランティアセミナー

ボランティアグループの抱える課題を解決する場と機会を提供するとともに、同じ課題を抱えるグループが交流する場を作ることで、さらなる活動の広がりを目指しました。

コロナ禍における
ボランティア活動を考える
配食ボランティアのこれから

コロナの影響で活動が休止している食事関係ボランティアについて、改めて活動の意味、意義を考え、また他地域で活動している事例を聞き、活動の可能性を考えました。
参加者からは、コロナ禍でも何かしらの活動を工夫しながら活動していきたいとの意見がありました。

14名参加

クラウドファンディング講座

団体の活動資金と支援者を募る方法として近年注目を浴びている「クラウドファンディング」の仕組みを学びました。参加者同士の交流から、新たな活動のきっかけとなり、いくつかの団体が実際にクラウドファンディングを活用した寄付を募りました。

31名参加

■ 配食サービスへの支援・助成 なでしこ配食サービス麴町・万世橋・神保町

ひとり暮らし高齢者、障がい者への見守りを兼ねて手作りお弁当を届ける活動を行っているグループの活動支援として活動場所の確保、助成金の交付と運営サポートを行っています。現在コロナの影響により手作りの食事を直接届けることが難しくなっているため、ほかのボランティアグループや企業の方が作った手作りマスクを持参し、利用者宅を訪問して近況確認などを行い、つながりを絶やさないようにしました。



[3] ネットワーク 災害・企業・学生

■ 災害に対する取組み「ちよだモデルネットワーク」

災害時はもちろん、平時からつながるための連絡会を実施し、顔の見えるネットワーク（ちよだモデルネットワーク：通称 CMN）づくりに力をいれています。

ちよだボランティアセンターは、災害時、「ちよだ災害ボランティアセンター」を立ち上げ、区内の様々な団体と連携して区内被災者の支援を行います。

CMN
学習会

千代田区で災害が起こったときにどのようなことが課題になるのか、どのように活動していくのか、連携していくのかを、テーマを決めて学ぶ学習会を開催しました。

＜テーマ＞①「被災者の困りごとを、どのように収集するか」

- ・ 予めニーズを予測して、必要な支援を届けるための工夫を行う。
- ・ 欲しい支援と可能な支援をマッチングさせる仕組みをつくる。
など

②「発災後に収集した地域の困りごとを、どう支援につなげていったか」

- ・ 平常時から地域の関係機関とのつながりの重要性など



学んだことを蓄積・明文化し、ちよだモデル（行動指針）を作成中。

学習会 2回/年 のべ24名参加

●CMN幹事会

幹事会は、災害学習会に参加したメンバーで立ち上げ、学習会の企画やネットワークづくりのための情報交換に組んでいます。また、ちよだモデル（行動指針）を作成するための検討も行っています。

参加団体：30団体



■災害ボランティアに関する意識の醸成

災害ボランティアとして活動に参加する場合どのようにしたらよいか、地域のみなさんにも広く知っていただく取り組みを行いました。

災害ボランティアハンドブック

災害被害によりボランティアの力が必要になった場合に、依頼するまでの流れや、ボランティアの方と接するときなどの留意点をまとめたガイドブックを発行しました。区内の町会、災害講座参加者等に配布しました。（4,000部発行）



災害ボランティアフォーラム

2021年1月に「災害ボランティアフォーラム」をオンラインで開催しました。地域で災害が起きた際どのような行動に移すか、ボランティア・受け入れ側・中間支援組織、それぞれの3者の立場による活発な議論が交わされました。普段から顔が見える関係づくりが防災・減災につながることを学びました。



■災害ボランティアセンター開設・運営訓練

災害ボランティアセンター開設・運営訓練を実施しました。社協職員間で課題を共有し、有事の際にどのように行動すべきかを確認しました。



■ちよだ企業ボランティア連絡会

ちよだボランティアセンターが事務局となり、社会貢献活動に関心を持つ区内企業との協働で事業の企画・開催、及び情報交換を行っています。コロナの影響によりプログラム活動ができなかったため、定例会では、各企業の活動の現状や今後どのようなことができるかなど、今後の活動について検討しました。

会員企業：24社

■大学生ボランティアサークルネットワーク

区内大学のボランティアサークル同士の出会いや交流を目的としたネットワーク。企画の打合せや情報交換を行っています。コロナ禍で対面でのボランティア活動が制限されている中、各大学のつながりを保つためにオンラインミーティングを開催しました。それぞれの大学の現状の報告やコロナ禍でできる活動の企画の提案を行い、みんなで一緒に考えていきたいとの想いを新たにしました。

参加：4大学 延べ25名

【4】プログラム開発 ～新たな活動づくり～

■ボランティア養成講座

ボランティア・市民活動への理解を深め、参加のきっかけ作りをします。地域の必要性からあらたな活動プログラムを作ります。

千代田区でコロナ禍の新たなつながり始めませんか？ LINEボランティア

コロナ禍で人と会うことや外出することができない中、離れた人とのつながりを作る方法を学ぶための講座を実施しました。



全1回16名

その後・・・

受講生によるボランティア活動立ち上げを目標に、グループの活動のミーティングを重ねています。つながる対象者がLINEを使えるよう、LINE教室の開催を予定しています。

災害時寄り添いサポーター養成講座

災害時の避難の際、高齢者や障がいのある方など配慮が必要な方々を支えるための基本的な知識を身につけ、普段から困っている人の気持ちに寄り添える講座を実施しました。

全3回 延べ128名

その後・・・

災害時だけではなく平時からの活動へも繋がるように、個人ボランティアの登録や学習会等の情報提供を行い、つながりを切らないための工夫を行っています。

【5】情報発信

情報誌、メルマガ等

■ボランティア活動紹介動画の配信 「ちよだボラtheMOVIE」

いつでもどこでも情報を収集してもらえるようにYoutubeでボランティア情報を配信しています。



■SNSを活用した情報発信

多様なボランティア・市民活動情報をすぐにお届けできるよう、ホームページやFacebook、Twitterを開設しています。



Facebook



Twitter

■ボランティア情報誌

ボランティア募集、助成金情報、ボランティアセンター事業の紹介などを掲載しています。(6,500部 隔月発行)



■情報ステーション

区内の商店等のみなさまにご協力をいただき、ボランティアセンターだよりをとれるステーションを設置しています

設置数

298箇所

■メルマガ ～千代田でつなメール～

Eメールを活用して、地域情報やボランティア・市民活動の情報を幅広く提供しています。
(毎週火曜日配信)

